

2023年11月7日 全8頁

Indicators Update

2023年9月消費統計

個人消費は総じて見れば前月から小幅減

経済調査部 エコノミスト 中村 華奈子

[要約]

- 2023年9月の家計調査における二人以上世帯の実質消費支出は前月比+0.3%、振れの大きな項目を除いた実質消費支出（除く住居等）は同+0.4%だった。一方、供給側統計である商業動態統計の名目小売販売額をCPIの財指数で実質化した小売販売額は同▲0.3%であった。複数の統計で補正したCTIミクロで見た実質消費は同▲0.6%、CTIマクロでは同0.0%だった。総じて見れば、2023年9月の個人消費は前月から小幅に減少したと判断される。
- 2023年10月の個人消費は前月から増加したとみている。11月以降も緩やかな増加基調を辿ろう。賃金上昇率の高まりなどが個人消費を下支えするだろう。他方、物価高の長期化により消費マインドが再び悪化すれば個人消費の回復が遅れる可能性には注意が必要だ。

図表1：各種消費指標の概況（単位：％）

統計		2023年 5月	6月	7月	8月	9月	出所	
需要側	実質消費支出（家計調査）	前年比	▲4.0	▲4.2	▲5.0	▲2.5	▲2.8	総務省、二人以上世帯
		前月比	▲1.1	0.9	▲2.7	3.9	0.3	
	実質消費支出（CTIミクロ）	前年比	▲1.3	▲3.1	▲1.9	▲1.4	▲4.0	総務省、二人以上世帯
		前月比	▲0.5	▲1.3	0.7	▲1.1	▲0.6	
供給側	小売販売額	前年比	5.8	5.6	7.0	7.0	5.8	経済産業省
		前月比	1.4	▲0.6	2.2	0.2	▲0.1	
	百貨店売上高	前年比	6.3	7.0	8.6	11.8	9.2	日本百貨店協会
	コンビニエンスストア売上高	前年比	5.3	3.2	5.1	6.1	3.5	日本フランチャイズチェーン協会
	スーパー売上高	前年比	2.2	2.1	4.9	3.4	2.8	日本チェーンストア協会
	外食売上高	前年比	11.8	11.8	14.2	16.6	15.0	日本フードサービス協会
旅行取扱高	前年比	80.5	42.6	60.4	63.6	-	観光庁	
需要側 +供給側	実質消費（CTIマクロ）	前年比	0.5	0.1	0.2	0.4	▲0.4	総務省
		前月比	▲0.2	▲0.1	0.0	▲0.1	0.0	

(注1) 百貨店売上高、コンビニエンスストア売上高、スーパー売上高の前年比は店舗数調整後。

(注2) 旅行取扱高（前年比）は大和総研による試算値。

(出所) 各種統計より大和総研作成

<9月の消費総括>総じて見れば前月から小幅に減少

需要側統計である家計調査における二人以上世帯の実質消費支出は前月比+0.3%と2カ月連続で増加した(図表1)。振れの大きな項目を除いた実質消費支出(除く住居等)は同+0.4%であった。一方、供給側統計である商業動態統計では、名目小売販売額は同▲0.1%、CPIの財指数で実質化した小売販売額は同▲0.3%といずれも減少した。複数の統計で補正したCTIミクロで見た実質消費は同▲0.6%、CTIマクロでは同0.0%であった。総じて見れば、2023年9月の個人消費は前月から小幅に減少したと判断される。

<家計調査(需要側)>「交通・通信」や「保健医療」など7費目が前月から増加

9月の家計調査を費目別に見ると、10大費目¹のうち「交通・通信」(前月比+10.6%)や「保健医療」(同+9.9%)、「家具・家事用品」(同+7.0%)など7費目が増加した(図表2)。「交通・通信」は2カ月連続で増加した。前月に続き自動車等購入が押し上げ要因となった。「保健医療」では医薬品への支出が拡大した。インフルエンザの流行により感冒薬などの需要が高まったとみられる。「家具・家事用品」では、エアコンなどの冷暖房用器具が押し上げ要因となった。「食料」は2カ月ぶりに増加した。内訳を見ると酒類などへの支出が拡大した。10月の酒税法改正に伴う一部商品の値上げを控え、駆け込み需要が発現した可能性がある。

図表2：実質消費支出(費目別)の前月比変化率

前月比、%	2023/2	2023/3	2023/4	2023/5	2023/6	2023/7	2023/8	2023/9	シェア(%)
消費支出	▲2.4	▲0.8	▲1.3	▲1.1	0.9	▲2.7	3.9	0.3	100.0
食料	▲0.1	▲1.7	0.3	▲0.1	▲1.5	0.8	▲1.1	2.1	28.2
住居	5.0	▲1.5	▲10.9	8.5	16.1	▲18.4	21.2	▲16.4	6.4
光熱・水道	10.8	▲4.5	▲5.1	0.1	▲6.3	2.0	▲3.0	2.2	8.4
家具・家事用品	0.0	▲2.0	0.2	▲4.6	▲11.6	20.2	▲7.7	7.0	4.3
被服及び履物	6.9	3.0	▲7.3	▲1.3	4.4	7.1	▲9.6	▲11.0	3.3
保健医療	4.0	10.1	▲0.6	▲6.3	▲0.6	1.8	▲2.3	9.9	5.1
交通・通信	▲20.1	8.6	3.0	▲19.0	21.9	▲13.6	11.7	10.6	14.3
教育	▲0.7	▲2.4	9.8	13.9	▲17.1	0.0	10.2	1.0	3.9
教養娯楽	▲4.5	2.0	▲6.9	0.7	▲3.3	▲0.9	7.5	▲5.4	9.5
その他の消費支出	▲2.6	▲6.2	2.0	1.2	▲2.0	▲0.4	2.1	1.0	16.7

(注1) 二人以上の世帯。総務省による季節調整値。

(注2) 「その他の消費支出」は名目金額指数(季節調整値)を、CPIの持家の帰属家賃を除く総合指数で実質化した値。

(注3) シェアは2022年の数値。

(出所) 総務省統計より大和総研作成

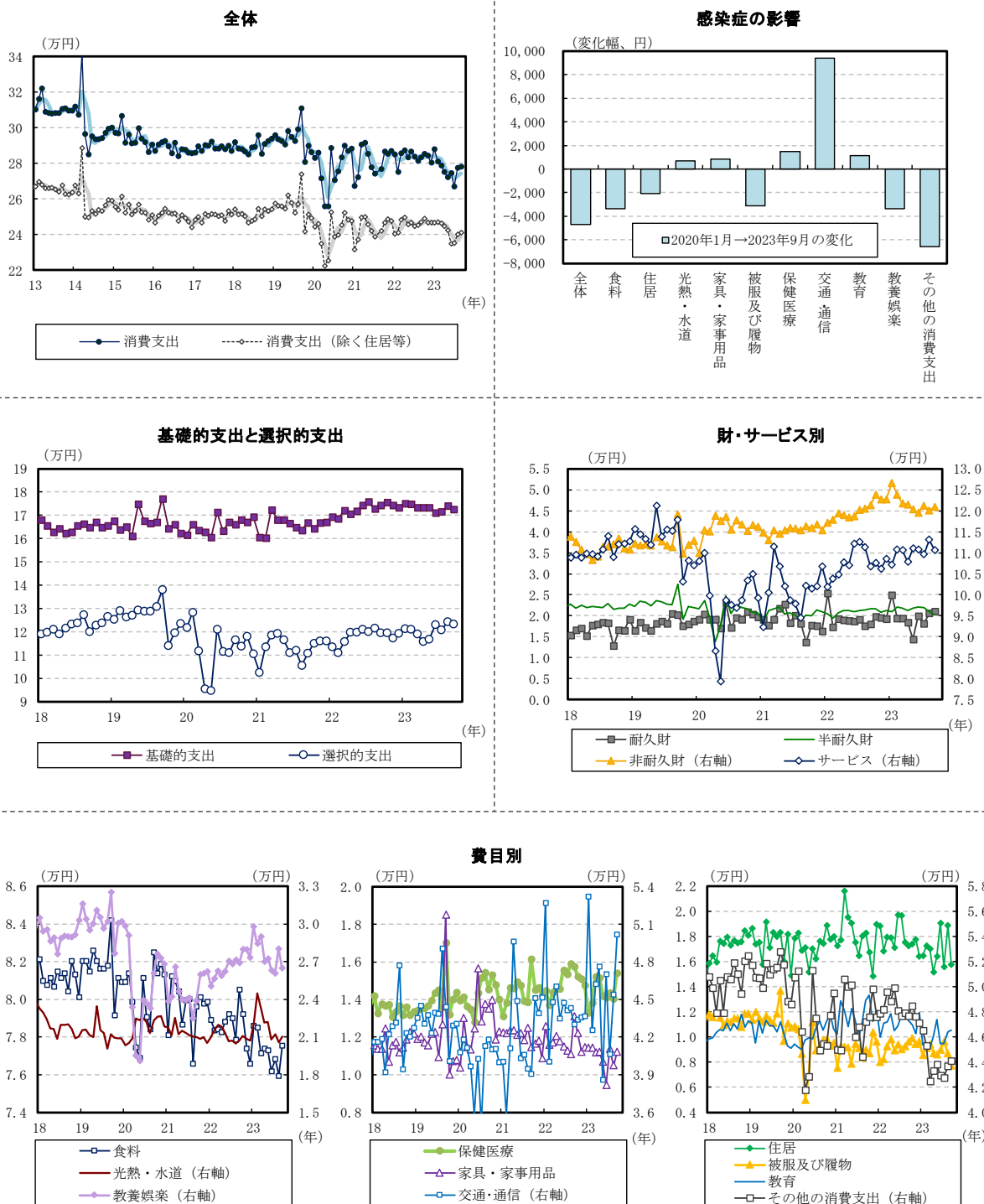
¹ 総務省による季節調整値。「その他の消費支出」の実質化は大和総研による。

他方で、「住居」（前月比▲16.4%）、「被服及び履物」（同▲11.0%）、「教養娯楽」（同▲5.4%）の3費目は減少した。「住居」については、大幅に増加した前月からの反動やサンプル数の少なさに起因する単月の振れによる動きとみられる。「被服及び履物」では、残暑が厳しく月の平均気温が平年より高く推移したこと（p.8 上段）で、秋物衣料などの季節商品の動きが鈍かった。「教養娯楽」では、宿泊料やパック旅行費などを含む教養娯楽サービスが押し下げた。

基礎的支出は前月比▲0.7%、選択的支出は同▲0.6%といずれも減少した（大和総研による季節調整値、**図表3左中**）。

財・サービス別に見ると（大和総研による季節調整値）、耐久財（前月比+2.6%）と非耐久財（同+0.7%）は増加した一方、半耐久財（同▲3.4%）とサービス（同▲2.2%）は減少した（**図表3右中**）。耐久財では前述の自動車や家庭用耐久財が、非耐久財では食料や医薬品などが押し上げた。他方、半耐久財は被服などが、サービスは教養娯楽サービスに加えて外食などが押し下げ要因となった。

図表 3 : 実質消費支出 (季節調整値、2020年基準)



(注1) 二人以上の世帯。基礎的支出と選択的支出、財・サービス別支出は大和総研による季節調整値、それ以外は総務省による季節調整値。
 (注2) 「消費支出 (除く住居等)」は、消費支出から「住居」「自動車等購入」「贈与金」「仕送り金」を除いた数値。
 全体の図中の太線は3カ月移動平均。
 (注3) 「その他の消費支出」は名目金額指数 (季節調整値) を、CPIの生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数で実質化した値。
 (注4) 各費目で個別に季節調整されているため、その合計は消費支出全体の季節調整値と一致しない。
 (出所) 総務省統計より大和総研作成

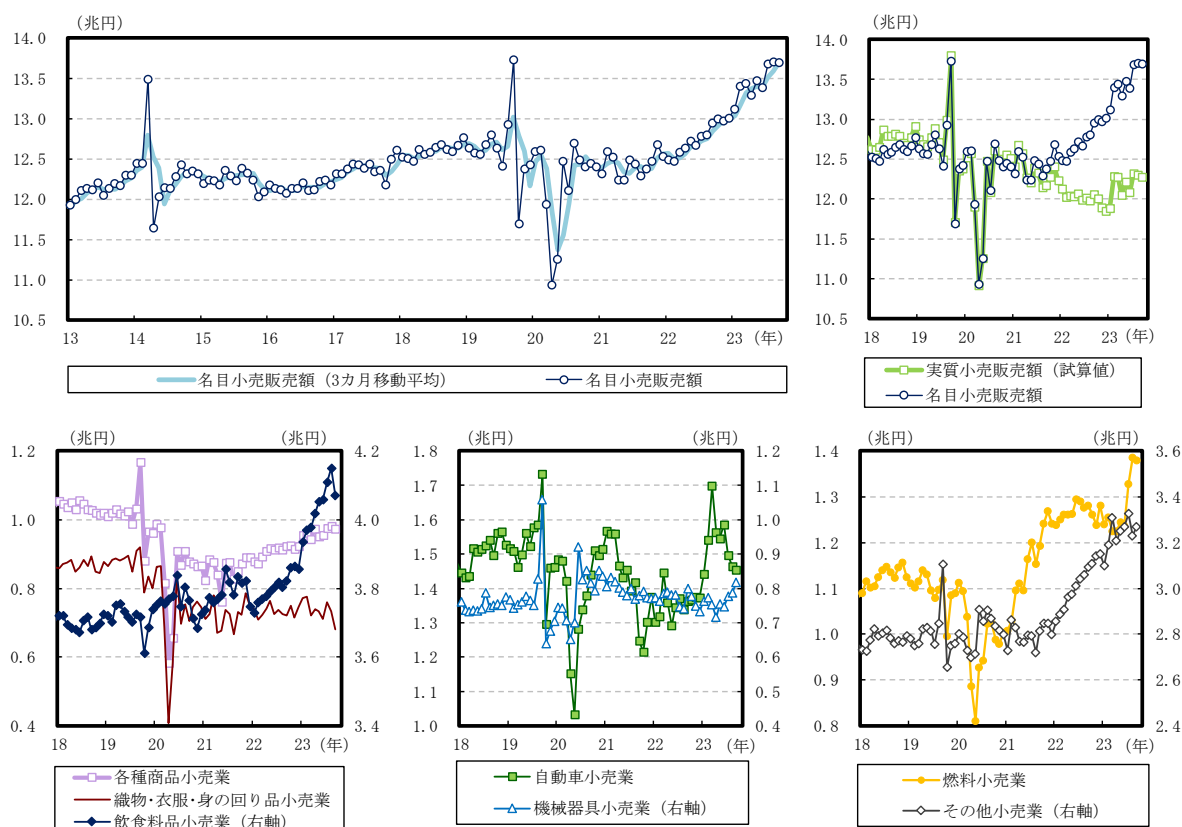
<商業動態統計(供給側)>被服や飲食料品を中心に名目販売額は3カ月ぶりに減少

2023年9月の商業動態統計によると、名目小売販売額は前月比▲0.1%と3カ月ぶりに減少した(図表4、5)。CPIの財指数で実質化した小売販売額も同▲0.3%と2カ月連続で減少した。ただし、季節調整済指数の後方3カ月移動平均が同+0.7%であったことなどを踏まえ、経済産業省は名目販売指数における基調判断を「上昇傾向にある」に据え置いた。

名目小売販売額を業種別に見ると、「織物・衣服・身の回り品小売業」(前月比▲7.2%)や「飲食料品小売業」(同▲1.9%)、「自動車小売業」(同▲0.8%)など5業種が減少した。「織物・衣服・身の回り品小売業」は、上述の天候要因により、秋物衣料など季節商品の販売が振るわなかったことが要因とみられる。「飲食料品小売業」は9カ月ぶりに減少に転じた。「自動車小売業」は3カ月連続で減少した。

他方、「機械器具小売業」(前月比+4.0%)と「その他小売業」(同+1.2%)の2業種は増加した。「機械器具小売業」は3カ月連続で増加した。「その他小売業」ではUVケア商品のほか、インフルエンザの流行もあり感冒薬などの販売額が増加したとみられる。

図表4：名目小売販売額（季節調整値）の推移



(注1) 経済産業省による季節調整値。各業種で個別に季節調整をかけているため、その合計は「小売業計」と一致しない。

(注2) 「小売業計」は「無店舗小売業」を含む。「その他小売業」は「医薬品・化粧品小売業を含むその他小売業」。

(注3) 実質小売販売額は、名目小売販売額をCPI(2020年基準)の財指数で実質化したもの。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

図表 5：小売販売額（業種別）の前月比変化率

前月比、%	2023年									シェア(%)
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
小売業計	2.1	0.3	▲1.1	1.4	▲0.6	2.2	0.2	▲0.1	100.0	
各種商品小売業	0.6	▲2.0	3.2	▲2.4	0.5	2.0	0.6	▲0.8	7.1	
織物・衣服・身の回り品小売業	0.7	▲7.0	2.3	▲0.6	▲3.1	6.8	▲3.5	▲7.2	5.6	
飲食料品小売業	0.9	0.2	1.0	0.8	0.2	1.2	1.0	▲1.9	29.5	
自動車小売業	7.0	10.1	▲8.0	▲1.1	2.6	▲5.7	▲2.1	▲0.8	10.5	
機械器具小売業	1.2	▲2.6	▲4.8	5.4	▲1.0	4.2	1.1	4.0	6.3	
燃料小売業	1.2	▲2.4	▲0.1	1.7	▲0.6	7.4	4.3	▲0.4	9.9	
その他小売業	2.9	3.7	▲3.1	1.3	0.6	1.7	▲2.9	1.2	23.7	

(注1) 経済産業省による季節調整値。

(注2) 「小売業計」は、「無店舗小売業」を含む。「その他小売業」は、「医薬品・化粧品小売業を含むその他小売業」。

(注3) シェアは、2022年の数値。「無店舗小売業」の系列が無い場合、各系列のシェアを合計しても100%にはならない。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

＜先行き＞緩やかな増加基調を辿る見込みも、物価高によるマインド悪化は懸念材料

業界統計や個社データ、JCB 消費 NOW を基に判断すると、2023 年 10 月の消費は前月から増加したとみている²。

10 月の消費を財・サービス別に見ると、19 年同月が消費増税前の駆け込み需要からの反動減で低水準だった点に留意する必要があるが、財消費では百貨店大手 3 社の既存店売上高やアパレル大手 3 社既存店売上高が 19 年同月比で前月から伸び率が高まった。新車販売台数は前月から大幅に増加し、20 年 10 月以来の高水準となった（大和総研による季節調整値）。サービス消費では、新幹線輸送量が 19 年同月比で前月からマイナス幅が縮小した。宿泊旅行消費額は前月から増加した。移動人口の動向を見ると（p. 8 中段）、月下旬には 19 年同月を 5%程度上回って推移した。

11 月以降の消費は緩やかながらも増加基調を辿ろう。外食や旅行を中心にサービス消費の回復が続くとみている。財消費のうち自動車については、挽回生産の進展を受けて販売台数は当面は高水準を維持するだろう。加えて、労働需給のひっ迫を受けた賃金上昇などが個人消費を下支えすることが期待される。

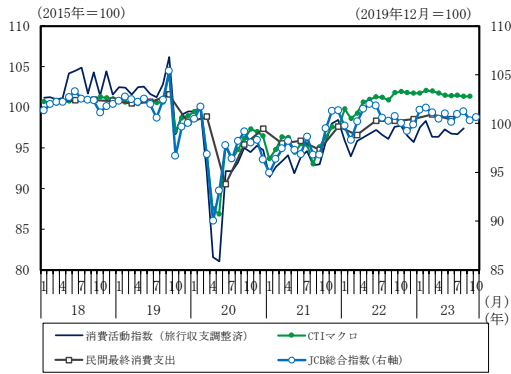
他方、物価高の継続は引き続き懸念材料だ。22 年以降続いていた値上げラッシュは一旦落ち着きを見せたが、人件費などの上昇も続いており、24 年以降も断続的に値上げが行われるだろう³。物価高の長期化などを背景に消費マインドが再び悪化すれば、個人消費の回復が遅れる可能性がある。

² 詳細は、拙稿「消費データブック (2023/11/6 号)」(大和総研レポート、2023 年 11 月 6 日)を参照。

³ 詳細は、帝国データバンク「『食品主要 195 社』価格改定動向調査—2023 年 11 月」(2023 年 10 月 31 日)を参照。

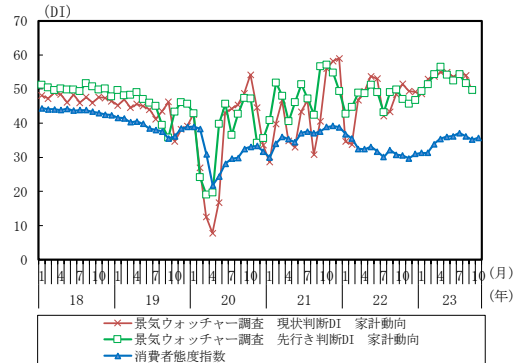
消費・概況

GDPベースの民間最終消費支出と各種消費指数



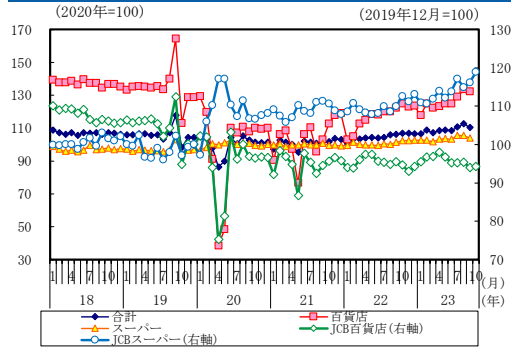
(注) 2023年10月のJCB消費NOWデータは10月15日まで。大和総研による季節調整値。CPI(2020年基準)で実質化。
(出所) 内閣府、日本銀行、総務省統計、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

消費者マインド



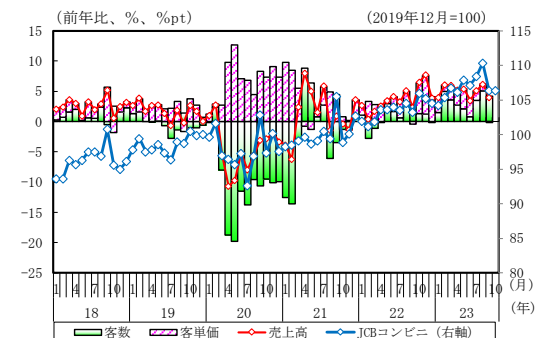
(注) 内閣府による季節調整値。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

大型小売業態別商品販売額



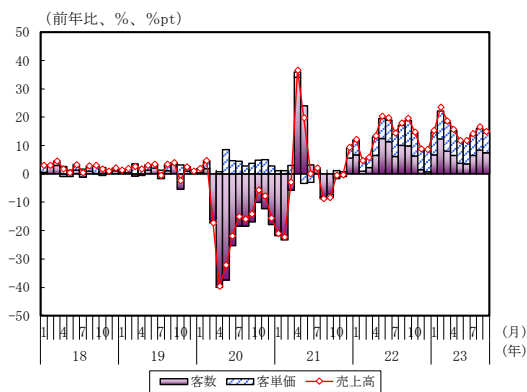
(注) 2023年10月のJCB消費NOWデータは10月15日まで。大和総研による季節調整値。
(出所) 経済産業省統計、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

コンビニ売上高(店舗数調整前)



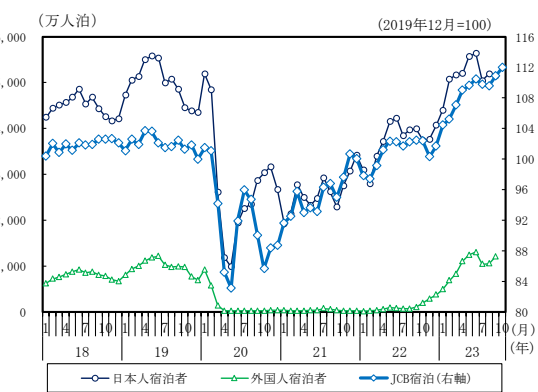
(注) 2023年10月のJCB消費NOWデータは10月15日まで。大和総研による季節調整値。
(出所) 日本フランチャイズチェーン協会統計、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

外食市場売上高



(出所) 日本フードサービス協会統計より大和総研作成

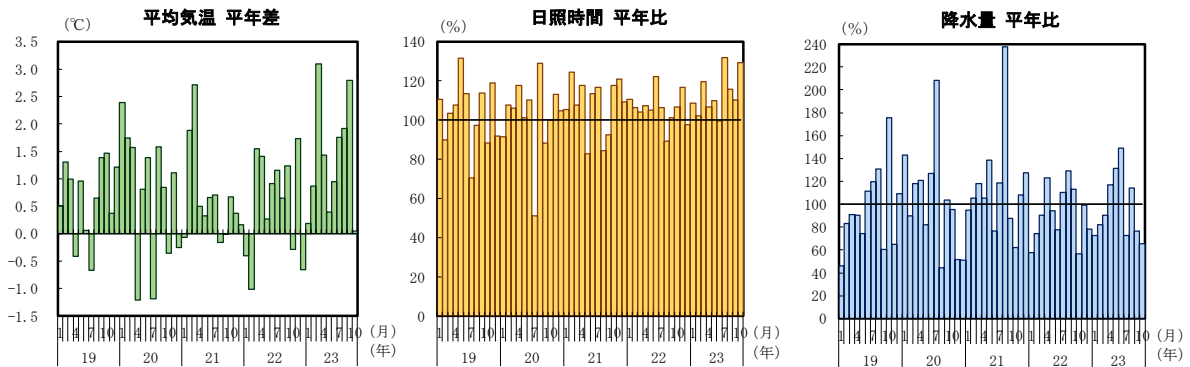
宿泊者数



(注1) 大和総研による季節調整値。
(注2) 2023年10月のJCB消費NOWデータは10月15日まで。
(出所) 観光庁統計、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

天候

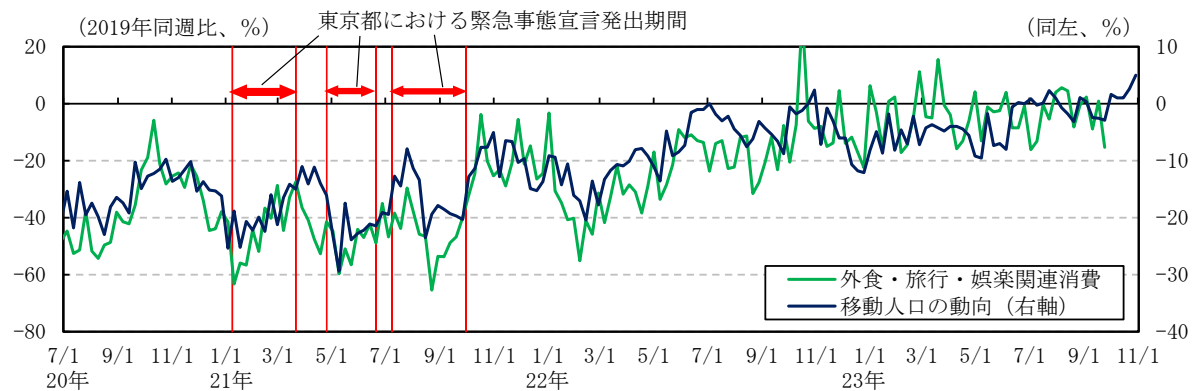
全国の平均気温・日照時間・降水量



(注) 東日本、西日本、北日本、沖縄・奄美のデータを2020年国勢調査の人口で加重平均したもの。
 (出所) 総務省、気象庁統計より大和総研作成

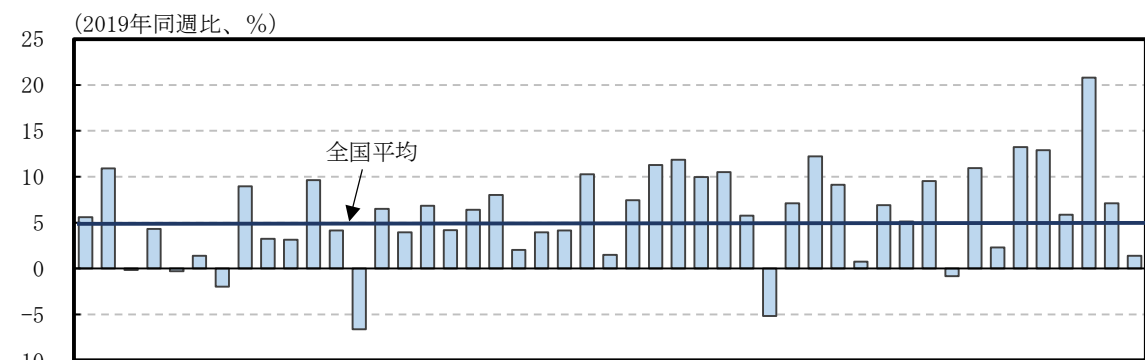
人出

外食・旅行・娯楽関連消費と移動人口の動向 (直近値 10/29)



(注) 移動人口は全ての市区町村の「推定居住地が市区町村外のもの」の人口を週ごとに集計したもの。
 外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。
 (出所) 総務省統計、V-RESASより大和総研作成

移動人口の動向 (10/23~10/29 週、都道府県別)



北青岩宮秋山福茨栃群埼千東神新富石福山長岐静愛三滋京大兵奈和鳥島岡広山徳香愛高福佐長熊大宮鹿沖
 海森手城田形島城木馬玉葉京奈潟山川井梨野阜岡知重賀都阪庫良歌取根山島口島川媛知岡賀崎本分崎児縄
 道
 (出所) V-RESASより大和総研作成